

配付資料

- 資料 1 令和 6 年度の事業実施状況（広島）
- 資料 2 令和 6 年度の事業実施状況（長崎）
- 資料 3 令和 7 年度の事業計画（広島）
- 資料 4 令和 7 年度の事業計画（長崎）
- 資料 5 入館者からの感想や意見・要望等（広島）
- 資料 6 入館者からの感想や意見・要望等（長崎）

令和 6 年度の事業実施状況

広島祈念館

1 頁～9 頁

令和6年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

令和6年度は、過去最多の入館者数となった。（従来は平成30年度の433,912人）

開館（平成14年8月）以来、令和7年3月末までの入館者数は、5,774,101人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（30,258,298人）の19.1%である。【過去3年間の月ごとの入館者数を9ページに記載】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均 入館者数	対前年比	外国人 ^(注) （内数）	
				入館者数	対前年比
令和4年度	188,170人	518人	303.2%	31,941人	869.9%
令和5年度	395,372人	1,095人	210.1%	142,073人	444.8%
令和6年度	466,270人	1,284人	117.9%	163,300人	114.9%
累計	5,774,101人	—	—	—	—

（注）外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置している。

また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、著名人の遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
令和4年度	1,005人	133.5%
令和5年度	1,124人	111.8%
令和6年度	1,002人	89.1%
累計	28,323人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

各都道府県の窓口にて体験記等の収集を周知するチラシを配布したほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成 18 年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図れるよう、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進した。

（参考）年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数（編）					図書収集（冊）		公開数 ^{（注1）} （編）
	H7 厚生省	H17 厚労省	H27 厚労省	独自収集	計	購入	寄贈	
令和4年度	▲1	0	▲2	69	66	162	97	531
令和5年度	0	0	8	91	99	148	61	185
令和6年度	0	0	63	89	152	72	104	1,851
累計	81,203	11,778	11,402	3,736	108,119	2,663	3,520	150,895

（注1）被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

（参考）被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数
館内公開体験記数	150,895
データベース化 ^{（注2）}	150,565
イメージデータ化 ^{（注3）}	108,055
テキストデータ化 ^{（注4）}	4,004

（注2）データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

（注3）イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるよう、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成 24 年度から実施）。

（注4）テキストデータ化とは、被爆者が書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成 24 年度から本格的に実施）。

4. 企画展の開催

企画展示室（地下 1 階）において、設定したテーマに沿った企画展を開催した。関連資料を展示し、被爆体験記を実物やディスプレイなどで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映した。

なお、これらの映像資料についてはインターネットに掲載するとともに、平和学習資料

としてDVDや資料の貸出を行っている。

(1) テーマ「暁部隊 劫火へ向カヘリ ―特攻少年兵たちのヒロシマー―」

- ・期 間：令和6年3月1日（金）～令和7年2月28日（金）
- ・内 容：太平洋戦争末期、陸軍の特別幹部候補生として集められた少年兵たちは、ひとり乗りのベニヤ製モーターボートで敵艦を撃沈させる特攻訓練を江田島で続けていた。しかし、死を覚悟していた彼らを待ち受けていたのは特攻ではなく原爆投下だった。救護へ急行した彼らが死の街広島で何を見て、何を感じたのか。彼らの心情に迫る。



(2) テーマ「受け継ぎ、語り継ぐ ―広島の惨禍と被爆者の思い―」

- ・期 間：令和7年3月7日（金）～令和8年2月28日（土）
- ・内 容：被爆80周年を念頭に、原爆被害の全体像に迫るため、主に5つのテーマ（「被爆時の惨状」「地域社会と家族の崩壊」「長期的・持続的な障害」「精神的・心理的打撃」「次世代への伝言」）に沿って、被爆者のことばを通して被爆の実相を明らかにするとともにその思いを伝える。



5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。（平成18年度開始）

（参考）年度別実施状況

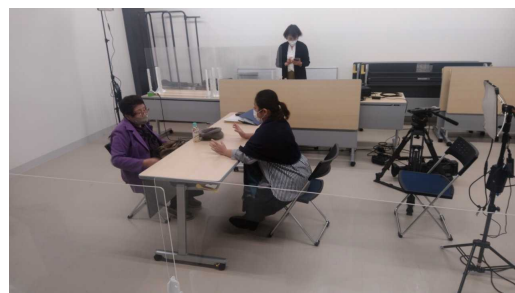
区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
令和4年度	10人	8人	2人
令和5年度	12人	11人	1人
令和6年度	10人	5人	5人
累計	227人	193人	34人



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆者団体等から推薦された広島県外在住の被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者については長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和6年7月～10月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和7年5月頃から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語っていただきます

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
令和4年度	13人	東京6人、神奈川2人、大阪3人、福岡2人
令和5年度	14人	青森1人、東京4人、埼玉1人、神奈川2人、愛知1人、島根1人、福岡3人、熊本1人
令和6年度	11人	福岡2人、大阪3人、岐阜2人、千葉1人、東京3人
累計	443人	45都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

なお、国外在住の被爆者証言ビデオの制作については、在外被爆者の減少に伴い被爆者団体等の現地での活動が縮小し、収録対象者の確保・調整が困難となっていることから、制作していない。

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	国・地域
令和4年度	－	実施していない
令和5年度	－	実施していない
令和6年度	－	実施していない
累計	67人 (68本)	韓国(34人)、台湾(4人)、アメリカ(18人)、アルゼンチン(1人)、オーストラリア(1人)、カナダ(2人（うち1人は日本語、英語で2本収録）、ブラジル(5人)、メキシコ(2人)

7. 多言語化対応事業

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、被爆の実相を母国語で伝えるため、令和6年度は被爆者証言ビデオの証言内容を翻訳した字幕について、新たにギリシャ語を追加し、25言語とした。また、被爆者証言の世界化ネットワークとの連携により、英語、フランス語、ドイツ語、ハンガリー語、ポーランド語、ロシア語の6言語の字幕を付した新たなビデオを追加作成した。

被爆体験記の翻訳については、新たに英語、中国語、韓国・朝鮮語の3言語の44編を追加した。

（多言語化の詳細を10ページに記載）

8. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成 17 年度から実施している。修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第 3 日曜日（日本語）、第 2 日曜日、第 3 火曜日、第 4 金曜日（英語）に開催する定期朗読会、5 月 3 日～5 日、8 月 5 日、6 日のビジターズ朗読会、市内近郊への出前朗読会も開催した。

また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内 13 団体へ貸し出した。



祈念館内での朗読会

（参考）年度別開催状況

（単位：回）

区 分	定期	集中開催 5/3-5, 8/5-6	広島市内	原爆展等	英語朗読 (英語定期含む)	計
令和 4 年度	24	15	60	開催なし	13	112
令和 5 年度	22	18	59	海外 1 都市 (4 回)	46	149
令和 6 年度	24	24	50	海外 1 都市 (2 回)	51	151

9. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐため、「被爆体験証言者」、「被爆体験伝承者」及び「被爆体験記朗読ボランティア」を、国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験証言講話、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施した。令和 5 年度からは、「家族伝承者」及び「原爆体験伝承者（国立市が養成）」の派遣も開始した。

令和 6 年度は、全国に 661 件（証言講話 30 件、伝承講話 603 件、朗読会 28 件）の派遣を行い、8 万 7 千人を超える児童・生徒等が聴講した。

（参考）地域別派遣件数

（単位：件）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	14	20	137	113	257	79	14	27	661

（参考）申込団体別派遣件数及び聴講者数

（単位：件・人）

区分	小学校	中学校	高等学校	大学	自治体	その他	計
件数	295	174	78	10	34	70	661
聴講者数	25,843	33,794	18,895	1,051	3,839	4,233	87,655

また、トルコのアンカラ市に朗読ボランティア（2 人）を派遣し、被爆体験記朗読会

を開催するとともに、アルゼンチンのブエノスアイレス市、スロベニアのマリボル市及びリュブリャナ市に被爆体験証言者（各1名）を派遣し、海外の人々と核兵器の恐怖や非人道性の認識について共有を図った。

- ・被爆体験記朗読会（トルコ） 2回
- ・被爆体験証言講話（アルゼンチン） 5回
- ・被爆体験証言講話（スロベニア） 3回

10. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

上記9の被爆体験伝承者等の海外派遣において、被爆の実相を正確に伝えることができるよう語学力の向上を図るため研修を実施した。

- ・被爆体験朗読ボランティア 11回

11. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

（参考）令和6年度実施状況

（単位：件・人）

区 分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	294	75	40	370	779
聴講者数	12,708	3,174	1,708	7,331	24,921
1団体あたりの 平均聴講者数	43.2	42.3	42.7	19.8	32.0

12. 平和学習講習会でのPR

多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市主催の平和学習講習会において、学校関係者及び旅行会社等に対し、祈念館で実施している被爆体験継承などの取組みについて紹介した。

（参考）年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
令和4年度	オンライン	令和4年8月18日	199人
	大阪府大阪市	令和5年1月27日	34人
令和5年度	オンライン	令和5年8月8日	128人
	神奈川県横浜市	令和5年8月25日	29人
令和6年度	東京都新宿区	令和6年7月30日	54人
	オンライン	令和6年8月8日	63人

13. インターネットによる情報提供

当館の事業内容を、ホームページ <https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/> で広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/> に掲載し情報発信した。

(参考) ホームページアクセス件数

区分	祈念館ホームページ	※ ¹ 平和情報ネットワーク
令和4年度	727, 274	6, 847, 635
令和5年度	798, 235	18, 905, 309
令和6年度	7, 987, 657	※ ² 100, 047, 410

※¹ 平和情報ネットワークは、広島・長崎両館が合同で運営している。

※² ページビュー (html 当のページ毎のアクセス数) を集計。

14. 情報展示システムの保守・管理および機器更改

来館者へ安定的にサービスを提供できるよう情報展示システムの保守・管理を行った。

15. 来館者増加対策等

広報紙、ホームページや新聞等を通じて情報発信に努めたほか、敷地内に新たな案内看板を設けるとともに企画展の案内看板を屋外に掲出する等、あらゆる機会を捉え、PRに努めた。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（平和記念資料館との比較）

令和4年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比
R4 4月	8,758	46,981	18.6 %	173.3 %
5月	14,286	100,452	14.2 %	622.8 %
6月	12,123	73,041	16.6 %	833.2 %
7月	10,508	59,685	17.6 %	159.1 %
8月	19,521	113,685	17.2 %	1,002.1 %
9月	13,600	82,772	16.4 %	#DIV/0! %
1 0月	18,280	130,893	14.0 %	189.7 %
1 1月	21,696	148,349	14.6 %	144.3 %
1 2月	14,636	91,951	15.9 %	150.6 %
R5 1月	13,087	61,322	21.3 %	566.3 %
2月	14,042	67,951	20.7 %	#DIV/0! %
3月	27,633	149,299	18.5 %	345.4 %
合計	188,170	1,126,381	16.7 %	303.2 %
累計	4,912,459	26,011,973	18.9 %	—

令和5年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比
R5 4月	30,218	162,802	18.6 %	345.0 %
5月	29,142	174,513	16.7 %	204.0 %
6月	31,749	169,049	18.8 %	261.9 %
7月	28,799	149,828	19.2 %	274.1 %
8月	42,590	200,400	21.3 %	218.2 %
9月	34,688	176,535	19.6 %	255.1 %
1 0月	49,495	237,858	20.8 %	270.8 %
1 1月	43,864	216,283	20.3 %	202.2 %
1 2月	21,574	120,586	17.9 %	147.4 %
R6 1月	19,196	85,443	22.5 %	146.7 %
2月	23,527	88,504	26.6 %	167.5 %
3月	40,530	199,981	20.3 %	146.7 %
合計	395,372	1,981,782	20.0 %	210.1 %
累計	5,307,831	27,993,755	19.0 %	—

令和6年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比	資 料 館 対前年度比
R6 4月	43,344	205,930	21.0 %	143.4 %	126.5 %
5月	45,161	237,034	19.1 %	155.0 %	135.8 %
6月	34,457	169,768	20.3 %	108.5 %	100.4 %
7月	32,537	159,579	20.4 %	113.0 %	106.5 %
8月	42,101	220,905	19.1 %	98.9 %	110.2 %
9月	42,128	194,849	21.6 %	121.4 %	110.4 %
1 0月	56,194	271,923	20.7 %	113.5 %	114.3 %
1 1月	51,764	266,542	19.4 %	118.0 %	123.2 %
1 2月	27,322	125,761	21.7 %	126.6 %	104.3 %
R7 1月	23,334	102,034	22.9 %	121.6 %	119.4 %
2月	27,261	96,824	28.2 %	115.9 %	109.4 %
3月	40,667	213,394	19.1 %	100.3 %	106.7 %
合計	466,270	2,264,543	20.6 %	117.9 %	123.6 %
累計	5,774,101	30,258,298	19.1 %	—	—

7. 多言語化対応

区分	被爆体験記		証言ビデオ				リーフレット 翻訳言語状況
	翻訳編数 (A)	(A)のうち R6年度新規 追加(作成)編数	字幕付本数 (B)	(B)のうち R6年度新規 追加(作成)本数	吹替え本数 (C)	(C)のうち R6年度新規 追加(作成)本 数	
1	英語	481	10	811	1	105	○
2	中国語	406	17	164		105	○
3	韓国・朝鮮語	405	17	163		105	○
4	アラビア語	9		11			○
5	イタリア語	9		11			○
6	インドネシア語	9		5			○
7	ウルドゥー語	9		5			○
8	オランダ語	9		5			○
9	ギリシャ語	9		5	5		
10	クロアチア語			4			
11	スウェーデン語	9		5			○
12	スペイン語	9		15			○
13	スロベニア語			6			
14	タイ語	9		5			○
15	ドイツ語	9		41	1		○
16	ノルウェー語	9					
17	ハンガリー語			13	1		
18	ヒンディー語	9		9			○
19	フィリピン語	9		5			○
20	フィンランド語	9					
21	フランス語	9		32	1		○
22	ヘブライ語	9		5			○
23	ベトナム語	9		5			○
24	ポーランド語	9		10	1		○
25	ポルトガル語	9		11			○
26	マレー語	9		5			○
27	ロシア語	9		13	1		○
	合計編・本数 (作成)	1,481	44	1,364	11	315	0
	合計言語数 (作成)	24	3	25	7	3	0
							21

※1 上記以外にも平成29年度は、海外原爆展への協力事業として字幕付き証言ビデオ【ハンガリー語（1本）及びモンテネグロ語（1本）】を製作した。
しかし館内システムやグローバルネットワークでの公開は行っていないため、合計編・本数及び合計言語数から除いている（2024年3月末日現在）

令和 6 年度の事業実施状況

長崎祈念館 1 頁～ 1 5 頁

令和6年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和7年3月末までの入館者数は、2,312,720人（一日平均302人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（14,264,990人）の16.2%である。

【過去3年間の月ごとの入館者数を15ページに記載】

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
令和4年度 ^(注)	95,260人（264人）	157.2%	28,197人	294.5%
令和5年度 ^(注)	118,562人（326人）	124.5%	51,693人	183.3%
令和6年度 ^(注)	137,137人（378人）	115.7%	50,741人	98.2%
累計	2,312,720人（302人）	—		

（注）令和4年度は、台風14号による臨時休館の9月18日～19日を除いた期間の入館者数

令和5年度は、台風6号接近に伴い8月9日15時～20時に臨時休館した時間を除く入館者数

令和6年度は、台風10号接近に伴い8月29日全日と30日8時30分～12時に臨時休館した時間を除く入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数を集計している（平成30年度から集計開始）。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。長崎県市をはじめ全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
令和4年度	334人	109.5%
令和5年度	303人	90.7%
令和6年度	343人	113.2%
累計	11,215人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

年 度	体験記収集	対前年比
令和4年度	69 人分	191.7%
令和5年度	79 人分	114.5%
令和6年度	81 人分	102.5%
累 計	746 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記等を選定し、英語に翻訳を行い、広い空間でゆっくりと閲覧できるように交流ラウンジにて実施した。

○第14回体験記企画展「幼い姉弟が見た広島・長崎」

期間：令和6年10月20日～令和6年10月31日

令和6年12月20日～令和7年1月14日（再展示）

概要：広島・長崎で二重被爆した青森県在住の福井絹代氏、相川國義氏（故人）姉弟にスポットをあて、相川氏が描いた原爆の絵・手記及び令和5年度に制作した福井絹代氏の証言ビデオを通して、二人の想像を絶する体験と記憶をたどり、平和について考えるもの。また手記・閲覧室では、東北地方在住の被爆者の体験記を展示した。



第14回企画展の様子

○被団協ノーベル平和賞受賞記念特別企画展「体験記が伝える 被爆者の思い」

期間：令和7年1月22日～令和7年6月30日（現在開催中）

概要：被団協のノーベル平和賞受賞を記念し、その活動の先頭に立ち続けた被爆者の渡辺千恵子氏、山口仙二氏、谷口稜曄氏が残した被爆体験記や関連図書、証言ビデオなどをおして、被爆の実相や核兵器廃絶運動への取り組み、平和への思いを伝える。長崎市が原爆資料館で開催した「日本被団協ノーベル平和賞受賞記念展」に関連して開催している。（原爆資料館での同記念展の開催は、令和7年3月31日で終了）また、3月20日に、永遠の会が、お三方の被爆体験記朗読会を実施した。



特別企画展の様子

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行った。（平成17年度開始）

令和5年度に引き続き、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力をよびかけた。今後も自治体などと協力し、収集に努めていきたい。

（参考）年度別収集状況

年 度	収集数
令和4年度	61人
令和5年度	26人
令和6年度	22人
累 計（平成17年度から）	212人



執筆補助の様子

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言ビデオを制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 年度別制作・収集状況

(1) 国内

年 度	収録数	収録都道府県
令和4年度	22 人	東京 (3 人)、神奈川 (3 人)、愛知 (1 人)、大阪 (2 人)、福岡 (3 人)、長崎 (10 人)
令和5年度	22 人	福岡 (1 人)、青森 (3 人)、神奈川 (1 人)、愛知 (2 人)、東京 (3 人)、熊本 (3 人)、埼玉 (4 人)、長崎 (5 人)
令和6年度	10 人	千葉 (2 人)、東京 (1 人)、神奈川 (2 人)、福岡 (2 人)、長崎 (3 人)
累計	475 人	

(2) 海外

年 度	収録数	収録都道府県
令和4年度	2 人	アメリカ (1 人)、ブラジル (1 人)
令和5年度	3 人	韓国 (2 人)、ブラジル (1 人)
令和6年度	3 人	韓国 (3 人)
累計	82 人	

7. 多言語化対応事業

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言ビデオ等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 年度別翻訳状況【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和4年度	7	23	23	0	53
令和5年度	7	12	15	0	34
令和6年度	4	16	16	0	36
累計	191	224	227	44	686

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言ビデオ】 ※（ ）内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数（編）				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和4年度	0	0	0	0	0
令和5年度	5(5)	5(5)	5(5)	0	15(15)
令和6年度	5(5)	5(5)	5(5)	0	15(15)
累計	66(34)	66(34)	66(34)	36(18)	234(120)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

令和4年度は過去の証言ビデオを見直し、英語3編、中国語21編、韓国語22編の字幕を修正

8. 被爆体験記の朗読事業

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成30年度には第2期生育成講座、令和6年度には第3期育成講座を実施・完了した。

令和6年度の館内における常駐朗読は地下1階追悼コーナーで、「9日を忘れない」朗読会は原爆資料館いこいの広場及び祈念館交流ラウンジで開催した。また、11月24日に長崎スタジアムシティで開催された「地球市民フェス2024」に出演し、「朗読と音楽の調べ～遠い、遠い、遠い夏の日。」を披露した。初めての祈念館外での定期朗読会となった。

また、令和6年度は市内の小学校1校、中学校5校に朗読指導を行うとともに、若者の参画のために令和4年度より募集しているU-25メンバーだけの出演で、「9日を忘れない」を開催した。

（参考）年度別開催状況【メンバー構成（令和7年3月末）87人※U-25含む】

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他
令和4年度	89日	14回(12回)	36回(学校・団体他)	4校(朗読指導)
令和5年度	115日	14回(11回)	53回(学校・団体他)	3校(朗読指導)
令和6年度	117日	14回(12回)	58回(学校・団体他)	6校(朗読指導)

〈活動の様子〉



常駐朗読
(11/16 祈念館追悼コーナー)



朗読会「9日を忘れない」
(3/9 祈念館交流ラウンジ)



地球市民フェス「朗読と音楽の調べ」
(11/24 長崎スタジアムシティ)

9. 家族・交流証言者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」及び「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。また、令和5年度からは、東京都国立市が養成した「原爆体験伝承者」の派遣も開始した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。

(参考) 年度別実施状況【長崎市外派遣】

年度	全件数	長崎市外				
		家族・交流	朗読会	体験講話	国立市	聴講者数
令和4年度	145件	100件	23件	22件		22,412人
令和5年度	173件	105件	37件	22件	9件	28,919人
令和6年度	204件	140件	32件	18件	14件	37,098人
累計 (H30年度～)	951件	611件	242件	75件	23件	174,531人

〈派遣の様子〉



家族・交流証言講話
(8/9 対馬市立佐須奈小中学校)



被爆体験記朗読会
(5/10 大分市立豊府小学校)



被爆体験講話
(7/3 西海市立大瀬戸小学校)



原爆体験伝承講話
(7/4 大阪市立塩草立葉小学校)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
令和4年度	実施無し			
令和5年度	アメリカ	11/8～11/17	7件 ※被爆体験講話 7件	445人
令和6年度	実施無し			
累計			23件	765人

10. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者及び被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和3年度、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修及び少人数での対面による研修を実施したが、令和5年度より、対面による研修を再開し、令和6年度は、家族・交流証言者、被爆体験記朗読ボランティアを対象に、英語の語学研修を実施した。

(参考) 家族・交流証言者語学育成研修 ※対面によるマンツーマン指導

【ブラッシュアップレッスン】

- ・受講者 2人
- ・実施内容 令和7年2月 計2回実施
- ・レッスン後、実際に英語講話を実施（令和7年1月11日、3月8日）

被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修

【初級コース】

- ・受講者 9人
- ・実施内容 令和6年10月～令和6年11月 週1回 計8回実施

【中・上級コース】

- ・受講者 9人
- ・実施内容 令和6年11月～令和7年1月 週1回 計8回実施

【初級者向けブラッシュアップレッスン】 ※少人数グループによる朗読指導

- ・受講者 4人
- ・実施内容 令和7年2月～令和7年3月 週1回 計4回実施

そのほか、被爆体験記朗読ボランティア向けにパソコン研修も実施した。

11. 修学講習（被爆体験講話）の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

（参考）年度別実施状況

年度	回数	利用者数
令和4年度	157回	3,969人
令和5年度	96回	2,281人
令和6年度	167回	4,124人
累計（平成20年度から）	2,114回	54,325人

※ 会場収容人数は最大40人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

12. 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

13. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野）の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話（被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供する「被爆者健康講話」）を行っている。平成24年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部（五島市）とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ていたが、令和2年度より五島会場からの中継は廃止した。

令和2年度及び令和3年度はコロナ禍で実施を中止したが、令和4年度は、8月より対面とオンラインによるハイブリッド形式での講話を再開し、令和5年度からは従来通り6月より対面で実施した。

録画した講話の様子は祈念館ホームページに掲載した。



講話の様子
（交流ラウンジ）

(参考) 年度別実施状況 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
令和4年度	7回	232人	—	232人
令和5年度	10回	287人	—	287人
令和6年度	10回	333人	—	333人
累計 (H20年度開始)	156回	4,911人	1,218人	6,129人

14. 平和関連情報の収集・整理・提供

来館者に「平和へのメッセージ」を作成していただき祈念館で保存・公開する。メッセージは祈念館で長期保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

(参考) 実績 ※タブレット端末・カードの合計数

年 度	収集登録数
令和4年度	2,162件
令和5年度	3,436件
令和6年度	3,153件
累計	98,761件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

15. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。

広島・長崎の両市が主催してアルゼンチンとスロベニアで実施したヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展に、当館で製作した被爆体験記集（スペイン語・スロベニア語）各300冊を提供した。

令和6年度は4月1日から5月2日までジョージア（旧グルジア）のシグナギ国立博物館（シグナギ市）、8月29日から9月12日までカザフスタンのカザフスタン国立中央博

物館（アルマティ市）で、9月16日から9月28日までナルホーズ大学（アルマティ市）で実施した。カザフスタンでの開会式に職員が出席した。なお、被爆体験講話については、令和6年9月20日にオンラインで実施した。



展示会場の様子



被爆体験講話(オンライン)

(参考) 年度別開催状況

年 度	会 場	場 所	期 間	来場者数
令和4年度	ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館	ホノルル市（米国）	3月1日～3月31日	2,254人
令和5年度	ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館	ホノルル市（米国）	4月1日～4月28日	3,154人
	イリア国立大学	トビリシ市 （ジョージア）	令和5年12月15日 ～令和6年2月1日	4,000人
	バトゥミ国立大学	バトゥミ市 （ジョージア）	令和6年2月4日 ～2月18日	200人
	シグナギ国立博物館	シグナギ市 （ジョージア）	令和6年2月27日 ～3月31日	998人
令和6年度	シグナギ国立博物館	シグナギ市 （ジョージア）	令和6年4月1日 ～5月2日	2,354人
	カザフスタン国立中 央博物館	アルマティ市 （カザフスタン）	令和6年8月29日～ 9月12日	3,225人
	ナルホーズ大学	アルマティ市 （カザフスタン）	令和6年9月16日～ 9月28日	2,800人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】14か国・27都市

アメリカ5都市、スペイン1都市、ベルギー1都市、マレーシア1都市、オランダ2都市、トルコ2都市、ロシア1都市、アイスランド2都市、ニュージーランド2都市、カザフスタン3都市、ドイツ2都市、ベトナム1都市、ポルトガル1都市、ジョージア3都市【延べ来場者数】(139,866人)

16. 外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう、実際にガイドを希望するガイド登録者を対象とした少人数制とし育成を行った。

令和6年度は5月～9月にオンライン及び対面の両方で開催した。また、10月から3月にかけて実際に祈念館のガイドを実践した。

(参考) 年度別開催状況

年度	開催講座 () : クラス数	受講者 (修了者) 数
令和4年度	英語 (1)、韓国語 (1)、中国語 (1)	22 人
令和5年度	英語 (1)、韓国語 (1)、中国語 (1)	20 人
令和6年度	英語 (1)、韓国語 (1)、中国語 (1)	25 人

※ 令和6年度修了者内訳 英語 10 人(前年比+2)、韓国語 9 人(前年比+2)、中国語 6 人(前年比+1)



フィールドワークの様子

17. インターネット会議システムによる平和学習・交流

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の学校や自治体等との海外ピースネットも実施している。

(参考) 年度別実施状況 ※ () 内数は海外との数

年 度	回 数	利用団体数
令和4年度	40(3)回	41 団体

令和5年度	27(4)回	25 団体
令和6年度	24(3)回	24 団体
累計（平成16年度から）	563(56)回	492 団体

〈ピースネットの様子〉



10/9 アメリカサンノゼ州立大学



10/24 岸和田市朝陽小学校

18. 国際協力・交流プログラムの実施

平成22年度から、アジアの若者による平和ネットワークの構築・拡大を目指し、マレーシア、韓国、中国等から教官、学生を毎年2月頃に長崎に招いて、「アジアの若者によるネットワーク構築プログラム」APN（The Asian Youth Peace Network Program）事業を実施してきた。令和4年度からは対象国を拡大し、「若者による平和ネットワーク構築プログラムNPN（Nagasaki Youth Peace Network Symposium）」と改称した。

令和6年度は初めての試みとして、海外原爆展を令和5年度に実施したジョージア及び令和6年度開催国であるカザフスタン共和国から学校の指導者及び大学生計6名を招聘し、海外原爆展を現地で説明したり、その後も継続的かつ自主的に原爆展を開催してもらうためのガイド研修を実施した。研修では、原爆後障害に関する講義、長崎原爆資料館の見学や碑めぐり、被爆体験講話、長崎の若者との交流会、原爆写真に関する研修など、多岐にわたるプログラムを実施した。

（参考）年度別実施状況

年度	国名/招聘	期間
令和4年度	米国6人、マレーシア7人	2月18日～2月19日
令和5年度	米国2人、マレーシア7人、韓国6人	2月12日～2月17日
令和6年度	ジョージア3人、カザフスタン3人	8月18日～8月22日
累計 （平成22年度～）	マレーシア86人、韓国68人、 インドネシア1人、中国24人、 米国8人、ジョージア3人、 カザフスタン3人（計 193人）	



原爆資料館見学



被爆体験講話



原爆写真研修

19. 国際平和映画祭の開催

映画を通じて平和の大切さや被爆の継承について考える契機とするため、原爆や平和をテーマにした映画を上映している。(平成 22 年度開始)

令和 6 年度は初の試みとして、公益財団法人長崎平和推進協会写真資料調査部会の「原爆写真展」との共催で、学童クラブを中心とした子供向け映画上映会を実施した。上映後には、事前研修を受けたユースボランティアが、展示されている子供向け原爆写真についてガイドを行った。

(参考) 年度別開催状況

年 度	上映映画数	期 間	来場者数	備考
令和 4 年度	3 作品	11 月 6 日	368 人	
令和 5 年度	3 作品	8 月 18～19 日	1,106 人	
令和 6 年度	2 作品	7 月 22～8 月 2 日	1,492 人	原爆写真展と共催
累計	87 作品	—	17,365 人	

※上映作品 (令和 6 年度)

【映画】「チョッチャン物語」「ぞう列車がやってきた」



映画上映会の様子



原爆写真展の様子



20. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施

令和 3 年度から、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）に委託して、祈念館が収蔵する被爆者の体験記や原爆資料館が収蔵する写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供するなど、若い世代への被爆の実相を伝える取り組みを実施している。

令和 6 年度は、「被爆前の長崎」の写真を活用した平和教育教材を 3 本のうち 1 本を英訳し公開した。また、被爆前後の様子を比較しながら見ることができる航空写真マップ「航空写真アーカイブ」を拡充し、これらアーカイブや平和教育教材を活用した授業等を全国の生徒、学生や市民に対して実施した。

・教育実践校

長崎大学、鎮西学院大学、明治学院大学、大阪公立大学、長崎県立長崎南高等学校、長崎市立野母崎小学校、長崎市立銭座小学校、山形市立新庄北小学校、東大阪市立花園北小学校、長崎信愛幼稚園

・その他（事業の紹介）

非核宣言自治体協議会原爆展、ピースプレナーフォーラム、朝日新聞主催国際平和シンポジウム 2024、日韓国テジョンの日韓交流事業、地球市民フェス 2024、長崎市学校教育課、川崎市など

21. その他（館内利用）

学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促している。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成 19 年度から統計開始。

年 度	件 数（学校数）	利用者数
令和 4 年度	384 件	23,161 人
令和 5 年度	397 件	23,037 人
令和 6 年度	467 件	25,932 人
累計(平成 19 年度～)	3,571 件	202,831 人

令和4年度						令和5年度						令和6年度					
区分	祈念館	資料館	割合	対前年比		区分	祈念館	資料館	割合	対前年比		区分	祈念館	資料館	割合	対前年比	
				祈念館	資料館					祈念館	資料館					祈念館	資料館
R4 4月	4,818	29,371	16.4%	146.1%	212.3%	R5 4月	6,728	48,915	13.8%	139.6%	166.5%	R6 4月	8,389	57,044	14.7%	124.7%	116.6%
5月	8,931	64,311	13.9%	—	—	5月	12,034	103,749	11.6%	134.7%	161.3%	5月	12,755	105,987	12.0%	106.0%	102.2%
6月	7,871	50,022	15.7%	234.9%	709.5%	6月	11,944	62,641	19.1%	151.7%	125.2%	6月	12,831	67,421	19.0%	107.4%	107.6%
7月	6,878	29,443	23.4%	110.3%	164.6%	7月	7,984	39,539	20.2%	116.1%	134.3%	7月	11,361	43,423	26.2%	142.3%	109.8%
8月	7,684	41,518	18.5%	321.6%	538.9%	8月	10,001	57,791	17.3%	130.2%	139.2%	8月	12,404	68,160	18.2%	124.0%	117.9%
9月	6,770	47,197	14.3%	310.3%	760.3%	9月	8,912	56,972	15.6%	131.6%	120.7%	9月	10,671	56,367	18.9%	119.7%	98.9%
10月	13,938	92,594	15.1%	123.2%	147.4%	10月	15,500	107,478	14.4%	111.2%	116.1%	10月	16,689	107,876	15.5%	107.7%	100.4%
11月	12,850	98,993	13.0%	89.1%	108.0%	11月	15,704	105,214	14.9%	122.2%	106.3%	11月	17,388	103,302	16.8%	110.7%	98.2%
12月	7,254	59,133	12.3%	72.3%	97.8%	12月	7,935	47,974	16.5%	109.4%	81.1%	12月	9,453	58,172	16.3%	119.1%	121.3%
R5 1月	5,287	28,572	18.5%	176.6%	199.2%	R6 1月	6,053	28,977	20.9%	114.5%	101.4%	R7 1月	7,311	36,601	20.0%	120.8%	126.3%
2月	5,791	34,054	17.0%	—	1308.8%	2月	7,237	39,047	18.5%	125.0%	114.7%	2月	7,610	41,587	18.3%	105.2%	106.5%
3月	7,188	49,025	14.7%	164.1%	192.8%	3月	8,530	60,456	14.1%	118.7%	123.3%	3月	10,275	64,885	15.8%	120.5%	107.3%
合 計	95,260	624,233	15.3%	157.2%	201.3%	合 計	118,562	758,753	15.6%	124.5%	121.5%	合 計	137,137	810,825	16.9%	115.7%	106.9%
累 計	2,057,021	12,695,412	16.2%			累 計	2,175,583	13,454,165	16.2%			累 計	2,312,720	14,264,990	16.2%		
祈念館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による 資料館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による						祈念館臨時休館日：R5.8/9台風6号により15時～20時 資料館臨時休館日：R5.8/9台風6号により15時～20時						祈念館臨時休館日：R6.8/29全日～8/30～12時まで台風10号による 資料館臨時休館日：R6.8/29全日～8/30～12時まで台風10号による					

令和 7 年度の事業計画

広島祈念館 1 頁～ 4 頁

令和7年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料1、P1参照】

広島県内外の被爆者対策担当窓口での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、証言ビデオや執筆補助事業、体験記の寄贈を受けた際などに新規登録を呼びかける。

2 被爆体験記等の収集・整理・公開【資料1、P2参照】

被爆継承担当部署や広島平和記念資料館と連携し、また、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか被爆者証言ビデオ収録など、あらゆる機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけ、収集に努める。

収集した被爆体験記は、逐次データベース化を行うとともに、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し、公開する。

3 企画展の開催【資料1、P2参照】

企画展示室（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。

また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行う。

【現在開催中の企画展】

- (1) タイトル：「受け継ぎ、語り継ぐ ―広島の惨禍と被爆者の思い―」
- (2) 場 所：企画展示室・体験記閲覧室（地下1階）
- (3) 期 間：令和7年3月7日（金）～令和8年2月28日（土）

被爆80周年を念頭に、原爆被害の全体像に迫るため、主に5つのテーマ（「被爆時の惨状」「地域社会と家族の崩壊」「長期的・持続的な障害」「精神的・心理的打撃」「次世代への伝言」）に沿って、被爆者のことばを通して被爆の実相を明らかにするとともにその思いを伝える。

【令和7年8月特別展】

- (1) タイトル及び内容：(検討中)
- (2) 場 所：研修室（地下1階）
- (3) 期 間：令和7年8月1日(金)～令和7年8月31日(日)（予定）

【令和8年3月1日以降】

- (1) タイトル：(未定)
- (2) 場 所：企画展示室・体験記閲覧室（地下1階）
- (3) 期 間：令和8年3月1日(日)～令和9年2月28日(日)（予定）

4 被爆体験記執筆補助【資料1、P3参照】

被爆者の高齢化に対応し、体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、聞き取り・代筆を行い、被爆体験記の収集増加を図る。

聞き取り予定人数：10人（一般公募）

5 被爆者証言ビデオ制作【資料1、P4参照】

被爆体験を次の世代へ継承するため、県外在住の被爆者を対象に、その体験談をビデオに収録し、館内の体験記閲覧室で視聴できるようにするほか、ホームページなどで広く公開する。（平成15～18年度に引き続き、平成21年度から実施）

- (1) 収録者数：中国、関西、九州地方在住の被爆者10人程度（予定）
- (2) 収 録 者：各都道府県の被爆者団体からの推薦や協力いただける被爆者

6 多言語化対応事業【資料1、P4参照】

海外からの来館者に被爆の実相を母国語で伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成を行うとともに、被爆体験記の翻訳も行う。

7 被爆体験記の朗読事業【資料1、P5参照】

次代を担う子どもたちへ、被爆体験記を朗読することにより被爆体験の継承を図るため、広島市内やその近郊において被爆体験記朗読会を開催する。また、朗読セットを貸し出しする。

(1) 修学旅行生を対象とした朗読会や出前朗読会、定期朗読会の開催

(2) 朗読セット貸出予定件数：10団体

8 被爆体験伝承者等の派遣【資料1、P5参照】

被爆体験証言者、広島市が養成している被爆体験伝承者及び家族伝承者、国立市が養成している原爆体験伝承者並びに上記7の被爆体験記の朗読を行うボランティア等の国内外への派遣を行う。

なお、実施にあたっては、広島市と調整を図るとともに、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と協力・調整を行い、また、関係機関への周知を図る。

伝承者等派遣予定件数：800件程度

9 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修【資料1、P6参照】

上記7の被爆体験記の朗読ボランティア及び上記8の被爆体験伝承者について、語学等の研修を実施する。

10 修学講習の実施【資料1、P6参照】

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を実施する。

11 平和学習講習会でのPR【資料1、P6参照】

多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市主催の平和学習講習会において、学校関係者及び旅行会社等に対し、祈念館で実施している被爆体験継承などの取組みについて紹介する。

12 インターネットによる情報提供【資料1、P7参照】

広く国内外に情報発信するため、同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオについて、順次、ホームページへ掲載する。

また、収集した図書については、随時、ホームページの図書検索画面に追加し、紹介する。

13 情報展示システムの保守・管理【資料1、P7参照】

来館者へサービスを安定的に提供できるよう、情報展示システムの保守・管理を行う。

14 被爆80周年記念事業

被爆80周年記念事業の一環として、「被爆の実相」を来館者により一層伝えるため、8月の1か月間に特別企画展を研修室で実施する。

また、当館で実施している執筆補助事業で作成・収集した被爆体験記集を作成し、平和学習資料として広島市内の中学校・高等学校等に配布することにより、次世代を担う子どもたちへ被爆体験の承継を図る。

令和7年度の事業計画

長崎祈念館 1頁～5頁

令和7年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料2、P1参照】

今年度は、被爆80年を機に、厚労省発出で各県ならびに長崎市・広島市に協力を仰ぎ、被爆者手帳をお持ちの方、全員に4館合同チラシ（長崎・広島原爆資料館ならびに祈念館の収集事業紹介）を配布する。また、従前どおり原爆被爆対策部援護課、長崎県原爆被爆者援護課の協力を得て、葬祭料の申請時にご遺族の方に氏名・遺影の登録依頼のチラシ配布も継続し、収集に努める。

2. 被爆体験記の収集・整理・公開【資料2、P2参照】

今年度も、長崎市原爆被爆対策部援護課の協力を得て、市内在住の被爆者（約1.7万人）の方に、体験記寄贈等（上述の4館合同チラシ）の呼びかけを実施する。

また、広報紙への掲載や、マスコミへの情報提供のほか、原爆養護ホームなどへ協力を求め、収集に努める。

収集した被爆体験記は、逐次データベース化を行い、展示システムに登録し、公開する。

3. 企画展の開催【資料2、P2参照】

テーマを定め、祈念館が収集所蔵する被爆体験記などの中からテーマに沿った体験記を選定し、交流ラウンジ等で開催する。

今年度は、被爆80年記念特別企画展として、救護被爆をテーマとし、県内で活動している関係団体等と連携して、パネルや資料の展示、証言ビデオの上映などを行う。また、多くの方に見ていただけるよう、例年2週間程度の会期を2カ月程度にする。

被爆体験記企画展

第15回体験記企画展（タイトル未定）：11月～翌年1月予定

4. 被爆体験記執筆補助【資料2、P3参照】

被爆者の高齢化で被爆体験記の執筆が困難な方を対象に、引き続き、聞き取りと代筆を行ない、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

今年度は、長崎市内・県内の被爆者団体や原爆養護ホーム等に協力依頼の呼びかけを実施する。

聞き取り予定人数：20人

5. 被爆者証言ビデオ（国内・国外）の制作【資料2、P3参照】

被爆者団体等の協力を得て、国内及び国外で被爆者証言ビデオを収録し、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

長崎県在住の被爆者のほか、4館合同チラシをみて申し込んできた長崎県外在住の長崎被爆者について収録を行う。

また、台湾在住の長崎被爆者についても収録を行う。

- (1) 収録者数：国内10人程度、台湾4人程度
- (2) 収録者：本人からの申込み、又は現地調査に基づき、収録者を確保する。

6. 多言語化対応事業【資料2、P4参照】

被爆の実相と被爆者の声を広く世界に発信するため、引き続き、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心として多言語化（翻訳・吹替え・字幕）を実施する。

当館で翻訳した被爆体験記（開催地の言語：英語）を広島市・長崎市が企画実施するヒロナガ原爆展会場（開催地の言語：英語）で配布してもらうよう、ヒロシマ・ナガサキ平和アピール推進委員会へ提供する。

7. 被爆体験記の朗読事業【資料2、P5参照】

被爆体験記の朗読ボランティアを育成し、長崎市内外小中学校等への派遣、来館者を対象とした館内での朗読を実施するとともに、厚労省収集の体験記を読み込み、館内常駐朗読のための素材の開拓（編集作業も含む）を進める。

併せて、若者の朗読ボランティアサポーターの「U-25」の活動の機会を増やし、朗読による被爆の実相の継承を実施する。

- (1) 館内朗読会：①定期朗読会年1回（祈念館交流ラウンジ）
②「9日を忘れない」毎月9日11:00～11:30（資料館いこいの広場）
- (2) 派遣朗読会：長崎市内外において、学校や一般の依頼に基づき、朗読会を開催する。
- (3) 常駐朗読会：毎週土・日及び祝日10:00～16:00 祈念館B1F 追悼コーナー
※毎月平日においても、1日程度実施
- (4) 派遣朗読指導：長崎市内において、学校の依頼に基づき、児童・生徒たちに被爆体験記の朗読指導を行う。

8. 家族・交流証言者等の派遣【資料2、P6参照】

長崎市の委託を受け長崎平和推進協会が養成した家族・交流証言者、被爆体験記の朗読ボランティア、被爆者ご本人、国立市が養成した原爆体験伝承者を全国に派遣する。

9. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修【資料2、P7参照】

引き続き、英語ネイティブによる語学研修を実施し、スキルアップを図る。

語学研修の成果を発揮する場所として、祈念館内（資料館内）での英語による講話を実施する。

10. 修学講習の実施【資料2、P8参照】

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、後代まで語り継ぐために、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のための被爆体験講話を実施する。

11. 情報展示システムの保守・管理【資料2、P8参照】

来館者がシステムをより使いやすくなるような改修業務を行う。改修内容については、広島館と相談の上、決定する。

12. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供【資料2、P9参照】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の協力のもと、被爆者を対象とした被爆者健康講話を実施する。講話した様子を録画し、祈念館ホームページに掲載する。

開催回数：6月～翌年3月 10回予定

13. 平和関連情報の収集・整理・提供【資料2、P9参照】

来館者自身が描く文字や絵による、平和のメッセージを収集・公開する。

14. 海外原爆展の開催【資料2、P9参照】

今年度は、次のとおり関係機関と調整を行っている。

ただし、今年度も被爆者への体の負担を考慮して、被爆者の渡航は考えておらず、ピースネット（オンライン講話）を実施する。

【令和7年度海外原爆展開催候補】

候補地	スターリング（英国 スコットランド）
候補地選定の経緯	これまで英国（核保有国）での開催実績がなく、トーマス・グラバーの関係で長崎とゆかりの深いスコットランドでの開催を検討する中で、スコットランド国際開発庁の駐日代表を通じ、スターリングを紹介いただいた。
概要	スターリングにて開催予定。
開催時期	2025年10月頃（予定）

また、昨年度実施し、好評かつ成果が認められた、海外原爆展を開催する都市や学校の指導者や若者を招き、海外原爆展を現地で説明したり、その後も継続的かつ自主的に原爆展を開催してもらうための研修（ピースラーニングプログラム：PLP）を、海外原爆展のサブ事業として実施する。

開催時期：7月中旬（予定）

参加者：今年度開催地スターリングの海外原爆展にかかわる若物（3人程度）

※国際・協力プログラムの実施【資料2、P12参照】

15. 外国語ボランティア育成講座の開催【資料2、P11参照】

今年度はすでに原爆についての知識のある平和案内人を主な対象として、即戦力のある外国語ボランティアを育成するために、座学およびフィールドワークを主体に実施する。また、昨年度好評だった、祈念館でのガイド実践を研修の中に組み込む。

16. インターネット会議システムによる平和学習・交流【資料2、P11参照】

被爆者の高齢化が進むなか、長崎を拠点に国内外の遠隔地の方へ被爆者の実相を伝えることができるインターネット会議システムの特性を活かし、長崎に来ることが難しい遠隔地の学校等を中心に、海外の大学や海外原爆展のネットワークを通じて海外の都市とも積極的に実施する。

- (1) 国内：10か所程度（長崎県内離島や県外）
- (2) 海外：2か所程度（海外原爆展でのピースネット実施含む）

17. 平和映画祭の開催【資料2、P13参照】

今年度は、被爆80年事業（ながさきピース文化祭2025参画事業）として、特に若い世代を対象として実施し、映画の上映を通じて平和の大切さを伝える。ゲストによるトークショー、または平和に関するメッセージの展示を行う予定。

開催時期：令和7年11月予定

会 場：原爆資料館ホール、祈念館交流ラウンジ（B2F）

18. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施【資料2、P14参照】

令和3～5年度は、若い世代へ被爆の実相を伝えることを目的に、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）に委託し、祈念館が収蔵する被爆者の体験記や新たに収集した資料や写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供した。

今年度は、令和6年度に引き続き、それらの教材を活用し、被爆の実相を伝える教育実践に取り組む。

これらの事業を実施するにあたり、参加者の安全などを考慮しながら、事業をすすめていくこととする。

以上

入館者からの感想や意見・要望等

広島祈念館 1 頁～ 1 2 頁

令和6年度 広島祈念館における入館者からの感想や意見・要望・感想

1. 概 要

平成14年9月から「感想ノート」を出口前の机に設置し、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。

平成31年度から令和3年度までは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、臨時休館や海外からの旅行者激減などにより、日本語での記述が多かったが、令和4年度後半からは、海外からの旅行者も徐々に戻り、外国語の記述が見受けられるようになり、令和5年度は全体の約8割を、令和6年度は約7割を占めている。

2. 主な意見・要望等

特になし。

3. 感 想（原文まま、外国語については、翻訳参照）

- 正直、言葉が出てきません。今の時代から、昔のようなことが起こっていたとは実感できません。しかし、このことを忘れてしまったら、また同じことが起こるのは分かっています。自分の大切な人を守るために、政治や日本のこれからをよりよく変えたい。
- 核の怖さや惨状は幾度となく見ており、戦争は各国間、するものではないことを学校で教えられました。特に、広島市は被爆市でもあり、尊い教育だと昔から（戦後）感じていました。今後は、ステップアップしていかに戦争を防げるか、核を全世界が無くするためにどうすれば良いかを、学校や家庭で議論したいです。各国の国民性、そして、国内でも県民性が薄れてきたといえども、未だ残っていますし、価値観も違います、かなり難しい課題です。すばらしい企画でした。
- 大人になって初めて来ました。体験談を話しながら涙される方を見て、私も心がしめつけられてしまいました。平和な国が続きますように。
- 強欲と無理解が戦争を導くのですね。人の利害あるかぎり戦争は止まず、核をもって身を守るしかないのだろう。それでも、「理性」と「教訓」は繋ぎとめるのだと思う。かつての惨劇が私たちに、生きる喜びを感じられる日々を繋いだのです。それをかみしめています。
- What my high school history class back in America NEVER taught me! I've only learned a small amount of this event. Coming here has truly given me an eye-opener. I've only learned about America's side of WWII and the bombing, but never about the aftermath

and others point of view of what happened .I encourage many people to come here and learn about this.

【翻訳】アメリカの私の高校の歴史の授業では、全く教えてくれなかった。原爆のことをほんの少ししか学ばなかった。ここに来て、本当に目からウロコが落ちました。第二次世界大戦と原子爆弾におけるアメリカの立場は学びましたが、原爆が落ちたその後のことや他者から見た原爆投下後の視点を全く学んでいません。多くの人々にここに来て原爆について学ぶよう勧めます。（アメリカ）

- 被爆者一人一人の手記や体験記を拝見させていただきました。読んでいる途中で心が押しつぶされそうになり、最後まで読み切ることが出来ませんでした。とても苦しいけど、私たちが忘れてはならない現実を受け止めなければなりません。
- 2度と戦争が起きてほしくない。起こしてはいけないと同時に、人を傷つけたりするようなことも、例え、小さなことでも絶対に起こしてはいけない、と改めて感じました。少しでも早く、世界平和と言える日が来ることを祈るばかりです。
- 原爆の怖さ、戦争をやってはいけない理由などが心に伝わりました。戦ってくれたから、今がある、と頭に響きました。戦争は起こってはいけない。そう願います。この機会に感謝します。
- I really liked how you guys created little books made out of paper for both kids and grown ups, and I find the book with the cats really cute, I'm sure a lot of kids also liked it ! I also really like the fact that you guys left this notebook so people can leave comments and ideas. I really enjoyed this visit, I was also to learn at more about history here in Japan Hiroshima, the videos here are also very cool, I also really like how this place is very very clean this place is spotless ! Thank you!

【翻訳】私は、あなた方が作られた大人も子どもも楽しめるちっちゃなかわいい本が本当に気に入りました。猫が描かれているその本が本当にかわいいと思います。きっと、たくさん子どもたちも気に入ると思います。また、このノートに人々がコメントや考えを書き残せることも気に入りました。今回ここへきたことをたいへん楽しんだし、ここ日本の広島を歴史を学ぶことができました。ここのビデオもまた素晴らしかったし、この場所がとてもとても清潔で汚れ一つないことも気に入りました。ありがとう。（不明）

- My heart is heavy. So sad tragic. I hope this will never happen again. Thank you for creating this memorial. Important to never forget.
【翻訳】気持ちが重く、悲しい、悲惨です。このようなことが二度と起こらないことを希望します。このような建物を作っていただきありがとうございます。決して忘れないことが大切です。（不明）
- I couldn't see the film till the end. Why are men still doing war?
【翻訳】最後まで、上映フィルムを見るできませんでした。どうして、人間はまだ戦争をしているのか（ポルトガル）
- Deeply moved by this memorial. Everyone must visit and see and listen, so no one has to suffer such pain again.
【翻訳】この祈念館に深く感動しました。誰もが訪れ、見て、聞かなければなりません。そうすれば、誰もが二度とこのような痛みを受けないから。（カナダ）
- ⑬のビデオを見て、今でいう中学生や高校生くらいの少年が兵隊に行ったこと、原爆で悲惨なことになっていた広島で救援活動をしていたことを初めて知りました。このビデオをもっと多くの人に見てもらい、広めてほしい。
- Thank you for sharing the stories and testimonies of those who survived and witnessed the bombing of Hiroshima. This museum and the 8:15 memorial is beautiful and thoughtful memoir about the truth of the incident and the disasters of war.
【翻訳】広島に落とされた原子爆弾の目撃者であり生き残った人の証言を共有していただき、ありがとうございます。この祈念館と追悼空間は美しく、（ここは、）戦争の破壊と出来事の真実についての追悼です。（不明）
- 何度目かの平和公園ですが、追悼平和祈念館は初めて訪れました。これまで何度も言われてきた「戦争はダメ」という言葉。理解はしているし、良いものだと考えること自体はありませんが、どこかで何故ダメなのかを説明できない自分がいました。20年生きてきた中で、やっと何故ダメなのかを言語化できるようになったと思います。これから先も言語化できる部分を増やしていきたい。ご冥福をお祈りします。
- I want to start off from that no one deserved this. Poor citizens suffered unimaginable death because of "highclass" people, the failed leaders. Innocent lives had to be sacrificed for a lesson. I don't think it should ever be like that. We should never learn through death, through a human loss. Each heartbeat counts. I couldn't help but cry at the fact of what the Aid corps had to go through, imagine their thoughts too! Insane. Amen, May they all find peace.

【翻訳】このようなことは、あつてはならないと言いたい。可哀そうな市民が上層部の人や誤った指導者のせいで、想像しがたい死を被った。罪のない命が犠牲にならなければならなかった。そのようなことがあつてはならないと思う。私たちは、決して死や人間の損失を通して学ぶことはない。それぞれの心臓が鼓動する、暁部隊が体験した真実に泣かずにはいられなかった。また、彼らの気持ちを想像した。狂っている。アーメン。すべての人が平和でいられますよう。(不明)

- The tragedies of Hiroshima's A-bomb are soul crushing, So many victims that have since gone un-known due to the loss of records. Walking through this hall has been an educational experience, teaching so much that I previously did not know. The child soldiers of the suicide attack squad is an incredibly heart breaking story and this hall preserves their memory and people can feel the sadness through their story. May all of the victims, civilians and soldiers find peace in the after life and may we never again see such tragedy.

【翻訳】広島に落とされた原爆の悲劇は、魂を打ち砕く。たいへんたくさん犠牲者が記録が残っていないため、身元不明のまま亡くなった。この祈念館を歩くことは、これまで知らなかったことを学ぶ貴重な経験であった。

特攻隊の少年兵たちは、信じられないくらい心が張り裂けけそうな物語である。この祈念館は、彼らの記憶を保存し、ここを訪れる人たちはその物語を通して、彼らの悲しさを感じることができる。すべての犠牲者、市民そして兵士が、死後の平和を見つけられますよう、私たちが二度とこのような悲劇を経験しないよう祈ります。(不明)

- 戦争をしていつどうなるかわからないという不安に追われるよりも、「明日がある」と確信できる「平和」が一番。
- I grew up to not liking Japan because Japanese invaded our county, Philippines but when I learned about what happen during the atomic bombing. I was so ashamed of myself of what little thing I knew about the history. I am glad the war ended and I was born in a different era.

【翻訳】日本は、私たちの国、フィリピンを侵略したので、若いころは日本が好きではなかった。しかし、原爆を落とされた日本のことを学び、私は歴史についてほとんど何も知らないことを、たいへん恥じています。戦争が終わり、違う時代に生まれたことを嬉しく思います。(不明)

- 私の働いていた老人ホームにNさんという人が入所されて来ました。その方と何年かホームで関わり、「被爆者なの」と教えてもらいました。その方をホームで看取りました。「私が死んだらここに来てね」と言われました。今日ここで再会できたことを嬉しく思います。いつも明るくておしゃれな方でした。遺影の写真もあの時のNさんでした。ここに来るまで少し時間がかかったけど、会えたし、約束を果たせました。また、会おうね。
- Thank you to Hiroshima and it's people for telling the world about the horrors of the atomic bomb. I share your commitment to peace and the elimination of nuclear weapons, hopefully we will never see the destructive force of this horrible weapon ever again. I apologize and feel guilty as an American and I am grateful that Japanese people have found it in their hearts to forgive the U.S for the terrible destruction we unleashed on your city and country.

【翻訳】原爆の恐怖を世界に伝えている広島と広島の人々にありがとう。核廃絶と平和への関わりを共にしたい。二度と恐ろしい兵器の破滅的な力を見ないことを希望して。私は一人のアメリカ人として罪の意識を感じ、謝りたい。そして、ひどい破壊をもたらしたアメリカを許す気持ちを日本人の人々が持っていることに感謝します。

- 日本人なのに知らなかったことが多く、今日、ここに来て知ることができ良かった。泣きながら見ている外国の人達が印象的だった。
 - 広島の被爆者の一人です。何度来ても只々、涙涙です。平和が大切です。でも、今も世界のどこかで戦争があります。人が人を殺すなんてどうゆうことかと思います。哺乳類の中で同じ種が殺しあうのは人間だけです。虎やライオンなどの猛獣でも同じ種同士は喧嘩はするけど殺し合いはしません。人間だけです。同じ人間同士が殺しあうのは、恥ずかしいことです。被爆者の一人として、核兵器をなくすこと、真の平和を求めること、守ることに力を尽くしていきたいと願っています。原爆で多くの友人、身内を失いました。今はその方たちの冥福を祈るのみです。
 - 今でも世界各地で戦争がまだ起きていることが頭に入っているが、この展示を見るとすごく心が重くなります。一刻も早く世界平和に近づきたいです。
 - This was powerful Experience. We salute to all solders helped to the insured persons. Also must appreciate Japanese for their come back to the life after this disaster.
- 【翻訳】すごい経験でした。原爆で傷ついた人たちを助けたすべての兵士に敬礼です。また、この悲惨な状況から普通の生活を取り戻した日本人を称賛しなければなりません。(不明)

- Thank you for preserving your history and making it available to everyone so we can all learn from this tragic experiences.

【翻訳】 広島を歴史を保存していただき、誰もが利用できることに感謝です。だから、私たちはこの悲惨な経験から学ぶことができる。（カナダ）

- この度は暁部隊の展示ありがとうございます。私は、伝承をしに大阪から通う度、ここに来ています。父は、暁部隊で金輪島で被爆し、救護で入市しました。86歳でガンで亡くなりましたが、生涯広島での地獄絵は忘れられなかったようです。今回の展示は、すべての兵士（入市した）の供養になると思います。娘にも見せるため一緒に来ましたが、二人とも父のこと、おじいちゃんのことを思い出し、涙しました。79年経ち、日本が核抑止力を容認することは、多くの被爆者、被爆して亡くなった人達の望むところではありません。広島長崎こそ真の核兵器反対を強く訴えてください。集めて頂いた証言ビデオをまたじっくり見たいと思います。兵士を美化するのはいけませんが、救護で苦勞し、ガン等で亡くなった元兵士の言葉をしっかり後世に残してください。広島の活動は世界にとっても意義あることです。
- 暁部隊の映像をたくさんの人が見るべきです。平和な世の中にするには、きれいごとだけでなく、一人一人が行動し、知り、自分事として感じる事が大切です。もっともっと勉強したいです。
- 胸が張り裂けそうな出来事ばかりです。こういった真実、実際のお話はずっと語りつがれなくてはならないと強く思いました。今初めて知り得たこと、帰宅して、娘と息子としっかりまとめようと思います。
- 初めて広島に来ました。ずっと原爆ドームには日本人として行かなくてはならないと思っていて、ようやく来ることができました。展示を見て、改めて広島市内をみると、なんだか感慨深いです。
- 暁部隊を見させていただきました。今まで知らなかった暁部隊の存在を知り、また、当事者の方々の生の声で話を聞き、とても胸に迫るもの、こみ上げてくるものがありました。戦争は絶対起こしてはならない。二度と子どもたちにあんな思いをさせてはならない、と強く感じました。
- 本日は大阪府から参りました。私は、元々長崎生まれであり、被爆三世にあたります。終戦記念日を間近に控えた本日、広島市内に未だ残る戦火の後を目に焼き付けることができました。幸い過去の出来事ですが、必ず後世に伝え続ける必要があります。大阪の中学校で教師をやっていますので、また夏休み以降、子どもに本日学んだことを伝えてあげたいです。ありがとうございました。

- 今日は大阪から来ました。中学高校等で「広島・長崎への原爆投下」について学ぶ機会がありましたが、実際にこのように広島へ来て資料館等を訪れることは本日が初めてでした。資料や写真等を拝見している中で胸が苦しく張り裂けそうになることばかりで、目をそむけそうになる瞬間が何度もありました。しかし、こうして実際に広島を訪れ、当時の資料を目にしたことで、改めて「今の平和を守り続けていきたい。今の自分に出来ることは何か」を考え続けたいという思いになりました。また、今回訪れて学んだことや知ったことを身近な人々に話していきたいと思っています。
 - 「人間は、核を廃絶できる」。広島を、長崎を、想像してください。二度と同じ苦しみを繰り返してはいけません。全世界の人々みんなで核のない世界を作りましょう。心から平和を祈ります。
 - 家族6人で来ました。今ある生活がどんなに幸せなことか。親もとを離れて特攻隊としてやってきた子どもたち。どんな気持ちだったのだろう。親はどういう思いだったのだろう。子ども4人は、ここへやって来て、広島で何を思うかな。まだまだこれからの人生、世界のみんなが幸せに過ごせるよう、今あることに感謝します。
 - 父とおばの手記を子どもたちに見せました。未来へつないでいこうと思います。
 - I've visited here 3 times and I'll invite my friends who are from Myanmar to know the value of peace more and more.
- 【翻訳】私はこちらを3回訪れました。ミャンマーからの友達を招待し、もっと平和の尊さを知ってもらいたい。（不明）
- 生きているうちに一度は訪れなければと思い、ようやく念願がかないました。絶対にこのようなことは二度と起こしてはいけないし、私達の世代から次の世代へこの出来事を伝えていく必要があると強く思いました。また、こちらに訪れたと思います。貴重な展示もありがとうございました。
 - 兵庫県から親子二人で来ました。被爆者たちの思いを聞いていると痛々しかった。これからも核の恐ろしさをいろいろな人に伝えたい。
 - 特別幹部候補生だった祖父が企画展に協力したいと聞き、石川県から来ました。今でもあの時のことを話すとき、祖父は言葉を詰まらせます。現在97歳です。孫として、被爆三世としてできることは何か考える日々です。私は、石川県で教師をしているので、祖父の話を、体験を、そして思いを「つなぎのこしていくこと」が大切だと思っています。8月6日の全校登校日、平和集会で子供たちに毎年伝えています。戦争のない平和な世界に。

- 私は広島で生まれ、広島で育ちました。現在高校2年生になり、小学生、中学生の頃ご教授頂いた被爆者の方の声や、原子爆弾の怖さを英語で伝える活動をしています。今日この地を訪れて、多くの人が一瞬で亡くなった原子爆弾の恐怖を感じました。私は、これからも広島の高校生として多くの人に核の怖さ、平和の尊さを訴え続けていきます。
- ここを訪れて心が痛くなるような時代の風景が見えました。「二度とこんなことがあってはならない」それを改めて実感しました。そして命の「とうとさ」それが一番の印象です。平和な世界を願います。
- 私はここを訪れて、今まで知らなかったことをすごくたくさん知ることができました。被爆した方は私たちと同じように生活をしていて一瞬にして失われた命はもう元には戻らないのだからもう広島に限らずどこでも同じことが起きないように小さいことから始めてみようと思います。これからが絶対に戦争のない平和で幸せな世界でありますように。
- We should stop the violence especially anything harming the innocence children
【翻訳】特に罪のない子どもたちを傷つける暴力は止めるべきである。（不明）
- 12年ぶりに広島へ来ました。祖父の体験談を思い出しながら資料一つ一つに目を通しました。どうか世界平和がおとずれますように。NO War. ウクライナ支援
- 小学校6年生に修学旅行で来てから9年ぶりにここへ来ました。大阪に住んでいるのですが、遠く離れた広島で、それも80年前の出来事であるものの、当時どんなことが起きたのか改めて知ることができました。国のために戦ってくださって、兵士をはじめとする亡くなったかた々が安らかに眠れるよう私たちも頑張ります。
- This made me feel very sad. I wish there is no war in the world.
【翻訳】ここでたいへん悲しくなりました。世界で戦争がなくなるよう祈ります。（アメリカ）
- Praying that this tragedy teaches the world a lesson and ensures that nothing this awful will ever happen again. Sending love to everyone. War is never an answer.
【翻訳】この悲劇が世界の教訓となるよう祈りながら、この恐ろしいことが二度と起こらないことを信じます。みなさんに愛を送ります。戦争は決して答えではありません。（不明）
- This was horrific event that mankind should be ashamed off. To keep the memories alive every child must be shown and be reminded that this must never happen again. So that when they grow up they still have these images of their ancestors. Also the in the political world the war mongers must be brought here to show what their ancestors did to humankind and that must not be repeated
【翻訳】この恐ろしい出来事は、人類が恥ずべきです。これらの記憶を子どもたちに継承し、このようなことが二度と起きてはいけないと心に留めるべきです。そうすることにより、子

どもたちは、成長した時、彼らは先祖の姿を思うからです。政治の世界で、戦争を好む人は彼らの先祖が人類にしたことを見せるために、そして二度と繰り返さないために、ここに連れて来られるべきです。（不明）

- 少年兵の心情たるや命の大切さと生きる意味を改めて考える機会を頂きました。
- 私は20歳になりましたが、同じ年の方たちはみんな戦争に行ったのだと、改めて思いました。私が家族と友達と一緒にいられて、好きなことをして死ねることがどんなに幸せなのか。この先の人生もこの方たちの分まで一生懸命生きていこうと思いました。
- I am a military man. Was overwhelmed by the memorial and the extent of suffering by people of Hiroshima. May such tragedies never occur again and peace prevail upon the earth.

【翻訳】私は軍人です。祈念館と広島の人々によってもたらされた苦しみの量に圧倒されました。このような悲劇が二度と起きませんように。地球に平和が広がりますように。（不明）

- おばあちゃん、生きのびてくれてありがとう。子どもたちをここへ連れてきて、どんな体験をし、悲しい思いをしたのか分かったよ。おばあちゃんのお母さんの名前、おじいちゃんのお母さんの名前も死没者名簿で見つけました。ちなみに、ここへ来たい、といったのは娘です。学校の教科書に載っているらしい。
- 私は京都から来ました。図書館で紙芝居を見て、映画を見て、辛く悲しい思いが目に浮かび、涙が止まりませんでした。本当にこの先ずっと戦争はあってはならないことです。平和な日々が毎日ずっと続きますように祈りたいと思います。
- Never again means never again for EVERYONE ! Never forget the crimes against HUMANITY and never let it happen again !

【翻訳】ネバー アゲインとは、皆にとって、「二度と決して」という意味です。人類に対するこの犯罪を決して忘れません。二度と起こしてはいけません。（パレスチナ）

- 本がいっぱいあることに驚きました。もし、大学に入れたら平和部に入部するつもりなので、入学と入部後は、ここ広島で起こったこと、戦争体験、平和について、より多くの人に語っていききたい。
- 世界で戦争が行われている中で、こうした日本の歴史を見に多くの外国人が来られていることはこれまでこの悲惨な経験を後世に語り継いで来られた人たちがその思いに賛同された方の功績であると思います。また。敵対していたアメリカの方や植民地になっていたアジアの方も訪れていてそれぞれに感じるものは違うと思います。ただ戦争を行うことなく、戦争を行えばどうなるか想いを馳せることができることはとても重要です。このような施設が今

後増えないことに祈りを捧げるとともに、いつまでもこの施設が続いていくよう現世、後世に期待をしております。

- 戦争は人間の性だね。今でも Ukurana と Rusia, Israel でも戦争が起きている。悲しい。企画展「暁部隊」の証言ビデオを見ました。心に残るね。人間に本当の平和が来ないと思うけど。Thank you for providing such information and thoughts to us. 被爆者たちの心が休まるよう祈ります。(ホンコン)
- 暁部隊のお話し、涙しながら見させていただきました。自分の子どもにこんな思いは絶対にさせたくない、と強く思いました。貴重なお話、ありがとうございました。
- 自分と同じくらいの年の人が死体を運ぶ作業をしていたと知りびっくりした。最初は怖くても段々何も感じなくなっていくと言うのが戦争の悲惨さを表していると思った。原爆が落とされてまだ100年も経っていないことがすごく怖い。
- 勉強でも習ったけど、実際に広島に来てみてすごいつらい気持ちになったり、悲しくなったけど、来て良かったなと思います。『もう同じことは絶対に起きてはいけない。』と思いました。
- 亡くなった人の写真のところを見て、まだ小さい赤ちゃんもいて「戦争とは何のためにあるのか」をワードに世界で考えてみたい。SDGS 17目標に「戦争をゼロに」を追加してもいいと思った。原爆のことを来世に伝えようという思いが伝わりました。Thank you !
- 母・祖母と会えました。少し涙が出ました。ありがとうございました。
- すごく胸が苦しいのと、自分がなぜ生きているのかをすごく考えさせられる展示でした。生きる意味が分かりました。鬱で死にたくなったけど生きようと思いました。
- お父さん、お母さん久しぶりにお参りにきました。僕が最後に残りましたが、もうすぐ参ります。待つて居てください。
- 会ったことのない伯母、父の妹、原爆からほどなくして、父ともう一人の伯母(父の姉)は、広島町の町を何日も歩き回って妹を見つけたと聞いています。歩き回っても見つからず「鼻の形が似ているから」と、たくさんの死体の中からひとつを選んだと。あるはずがないと思いつつ遺影検索すると、出てきました。初めて目にするお顔は亡くなって久しい父や伯母にそっくりでした。医療従事者であったことも初めて知りました。80年の時を経て、改めて私たちは、いろいろな思いを呼び起こして考えさせて下さる、この祈念館に感謝です。
- 祖父の遺影に挨拶に来ました。祖父は35歳の時に原爆で亡くなりました。私は、祖母と仲が良く、祖父の話をよく聞きました。父がまだ小学生の時に亡くなったので、父の心に大きな傷をつくりました。盆と正月に皆が集まりますが、毎年、父は祖父のことを話しました。テープレコーダーで再生しているかのように記憶をなぞって同じ話しをして、同じところで

大泣きをする。その姿は、小学生のままで、子どもも孫も「また、泣いたね」と言ってしんみりする。その繰り返しでした。父は亡くなり、その場面ももう見る事ができない。でも、ずっと私たちの心に父の姿が刻まれました。祖父は、今の県庁あたりを、試験か何かを受けていたそうで（警察になる人がいなかったのも、当時）その時、紫色の光がピカッと光り、次には建物の下敷きになっていたと祖母から聞きました。祖母や父は神石町へ住んでいて、祖父だけ広島に仕事を求めて来ていたのです。真っ暗の中で気を失ったりしながら時間が経ち、遠くに光が見えたので、はってそちらへ移動し、そのうち叔父が父を見つけて神石へ帰ったそうです。子どもだった父は、包帯をぐるぐる巻きにした父の姿にショックを受け、家でも看病する日々にも傷ついて、深い悲しみをかかえて大人になりました。家の歴史に祖父のことが大きく残っています。父を連れて帰ったおじさんは、当時の事を話したくないと言って、話してくれませんでした。父が泣く姿を通して、私たちも心が傷つきました。祖父の写真を見ると、みんなの思いを考えてしまい、いつも泣いています。祖父がいたら、父の人生はもっと違っていただろう。自由に、陽気で、のびのびと、いろんなことができたかもしれないと思います。ハンサムで背が高く、朗らかな父だったので。祖父もカッコいい人だったようです。みんなが自由に自分らしく、明るく朗らかに未来に向かって生きる。何にも邪魔されず、世界中の人がそのように生命で輝かせることができますように。

- この旅で長崎、知覧そして広島に来ました。今から、80年前に戦争終結。私はその時代には生きていませんが、多くの方が亡くなった事がくやしいです。戦争のない世の中にするには、人の力が不可欠。戦争なき世の中に。戦争という言葉が世の中から消えますように。
- 今、ここは綺麗に整備された公園となっていますが、原爆が投下される前は人々の暮らす普通の街であったことを考えると、本当に心が痛いです。唯一の被爆国として、日本の役割は、この原爆によって、たくさんの人々が苦しんだこと、残された人の悲しみいろんなことを伝えることだと思います。被爆の苦しみに今でも耐えている人がいることを忘れてはいけませんし、絶対に核を落すことがあってはならないと思います。平和とは何か、今まだ世界では戦争が続いています。そういう事を許していいのか？みんな一人一人日本人は考えるべきだととても感じました。
- 来て良かった。私たち若い世代が、次の世代に伝えていかなくてはならないことが再確認できる。
- 今まで授業で習っただけでは得られなかったものを学べた気がする。来るまであまり興味がなかったが実際に来て良かった。
- 72歳にして始めてこの広島に来て、戦争の悲惨を改めて知ることができました。本当に二度とこの様な惨事が起こらないことを願っています。

- アメリカ在住の日本人です。里帰り中の訪問で、昨年に続き2回目の広島です、前回時間が足りず、今年も広島に来ました、毎日当たり前に過ごしていることは当たり前でない、家族が幸せに生活していることはとても幸せなことだと改めて痛感しました。戦争のない世界になるよう願うばかりです。ありがとうございました。
- 陸軍船舶隊第九カナ教育連隊の指導との名目で1944年初頭招集された父から、江田島に着いて、原爆投下の夕方から救助のため市内に入ったと聞いていました。気になって企画展終了間際に来て、沈みそうな潜水艇で訓練していた若者の事、更に、地獄の中で人命救助・死体処理を繰り返した事を知りました。80年経ったのに、知らない戦争の実態がまだまだあるのでは、と感じました。
- 被爆した方々の体験談や語りを見聞きして、原爆の恐ろしさに本当の意味で、わずかながらですが共感（初めて）できた気がします。この先も資料を残し語り継ぎ続けていただきたいと思います。私も、もっと知り、自分の周囲の人々に、伝えていきたいと思います。
- 長崎から来ました。長崎とは違う所が多々ありました。勉強になりました。平和について学ぶことが大切だと考えます。
- 自分は戦争を知らないが、このような機会を得たのは、すごく考えさせられました。世界が平和になりますように。
- 残酷すぎて言葉にならない。
- 滋賀より在来線を使い来訪致しました。改めて、原子爆弾は、一人ひとりの日常や家族や恋人をはじめとする大切な人たちだったことに気付かされました。被団協がノーベル平和賞を受賞したこと、今年は終戦80年目の節目であることなど、今、私を含めた日本国民、世界中の人々が争いの醜さと安全保障について問い考え直すべきであろう。亡くなられたすべての方に追悼の念を捧げます。

入館者からの感想や意見・要望等

長崎祈念館

1 頁～ 4 頁

長崎祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

1. 概要

平成 17 年 2 月から「ご意見ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。外国語（英語、ハングル、中国語、アラビア語、アジア・ヨーロッパ各言語）での感想・意見が半数以上を占めた。

2. 主な意見・要望等

特になし。

3. 感想（感想ノート原文のまま掲載）

(1) 祈念館について

○二度とこのようはことが起こらないために、平和を守らないといけないと感じました。ここは平和の大切さを教えてくれる大事な場所です。(原文ハングル 国不明)

○韓国から来ました。犠牲者のことを思うと残念で仕方がないです。安らかに眠られることを心からお祈りします。(原文ハングル 韓国)

○祈念館に入って、悲しい資料を読んでいると、鳥肌が立ちっぱなしでした。世界の平和を願います。(原文中国語 台湾)

○ここはとても平和です。ここで侵された過ちを繰り返さずに、世界平和を達成できたらどんなにいいでしょう。特に今は、それはとても遠い夢です。しかし、私たちは夢と希望を持っています。(原文英語 国不明)

○夫と私にとって、資料館、祈念館、平和公園を訪れて原爆の恐ろしさを思い知ることは胸が張り裂ける思いです。将来、地球上で永遠の平和が訪れますように(原文英語 シンガポール)

○戦争の犠牲者のために、永遠の祈念館を作ってください、ありがとうございます。私たちがこれからも平和に暮らし、このようなことが二度と起こらないよう願っています。(原文英語 国不明)

○ここの朗読ボランティアの人たちはとても誠実で親切で、ボランティア活動にとても感謝しています。(原文英語 国不明)

○初めて、この追悼平和祈念館に来ました。「悲劇を二度と繰り返さない」という思いを改めて強くしました。(日本)

○朗読会で涙しました。また子どもたちと再訪します。平和について一人一人が考えましょう。(日本)

○入館してからずっと、心臓がドキドキしています。以前は歴史の教科書でしか知らなかった情報ですが、この祈念館のおかげで歴史をより身近に感じる事ができて、本当によかったと思います。私は戦争を経験したことはありませんが、二度と戦争が起こらないことを願っています。世界の平和を祈ります。(原文中国語 台湾)

(2) 展示について

○アメリカ人として、この場所を訪れるのは非常に考えさせられる経験です。もちろん、私の父や祖父の世代から核について聞いて育ちました。戦争は私の最大の恐怖の一つです。ここに来て、実際に経験した人々のことを想像するのは、心を揺さぶられます。どの国も二度とこれらの兵器を使う必要がないことを願っています。私たちは、技術的なエラーの危険や脅威によって、何度も危機一髪のところまで来ています。核兵器の存在が相互確証破壊を生み出し、核技術が現代世界を形作ったことは事実ですが、それでも教訓は学ぶべきです。特に日本の人々、子供たちの心に、この恐ろしい時代を理解させ、偉大で有益な訪問にするために、資料館・祈念館でより多くの努力と理解が必要です。(英語 アメリカ)

○韓国から来ました。とても意味深く、記憶すべき歴史を見学させて頂きありがとうございます。世界の人々がこれからもずっと平和への道を目指せるように、二度と悲しい歴史が繰り返されないように。(原文ハングル 韓国)

○私たち一人一人が平和、戦争の終結、歴史の繰り返しを阻止するために、これらの記憶を集める必要があります。長崎の多大な努力に心から感謝します。忘れずにこの言葉を広め続けましょう。暴力は解決策ではなく、混乱をさらに悪化させるだけです。(原文 英語・中国語 台湾)

○被害者が受ける苦しみ。残念ながら十分な注目が集まっています。資料館、そしてこの祈念館はとても役に立ちます。非常に興味深く、戦争が引き起こす苦しみと、なぜ国内爆撃機を使うべきではないのかを説明してくれます。戦争

は決して解決策ではない。意見の相違は常に平和的に解決されるべきです。(原文ドイツ語 ドイツ)

○山口仙二さんの写真(アメリカの写真家が撮ったもの)が、美しすぎて涙があふれました。生き抜かれた美しさでした。戦争はあってはいけません。被爆2世(日本)

○原爆で亡くなった私の祖父と叔父2人と去年9月に93才で亡くなった被爆者である母の写真をおさめに来ました。写真の検索の方法を教えてください、叔父の名前を入れてみると、なんと、写真が掲載されていたのです。びっくりして鳥肌が立ちました。中学生だった叔父の同窓会の方が掲載してくださっていたのです。中学1年生(13才)の叔父に初めて会うことができました。なんと奇跡。ここに来てよかったです。母が会わせてくれたのかもしれませんが。ありがとう。どうか世界が平和でありますようにと願ってやみません。(日本)

(3) 平和に向けての主張

○世界の平和を祈ります。これ以上罪のない人々が亡くなりませんように！(中国語 国不明)

○人と命を大切に思う世界になりますように。このために献身する多くの方々に拍手と応援を…私も弱者の方に立って生きる道を選びます！(原文ハンガール国不明)

○世界が平和でありますように。核兵器廃絶 (中国語 香港)

○世界の平和を願って。戦争が永遠に起こらないように！！(中国語 国不明)

○永遠の平和の道を見つけましょう。(英語 国不明)

○すべての人に愛と平和がありますように。(英語 シンガポール)

○世界に平和を(英語 タイ)

○平和には国境も国籍もないはずです。私たちは皆人間です。(フランス語 カナダ)

○地球に平和がありますように。戦争の犠牲者を思うと胸が痛みます。戦争には犠牲者がいます。地球上で平和に、公正に暮らしましょう。(英語 フィリピン)

○地球のすべての生命が生き生きと思うままに生きられますように、平和を祈ります。(日本)

○原子爆弾の犠牲者の方々に追悼と深い敬意と思いやりを捧げます。(原文英語 ポーランド)

(4) その他

○人類は科学技術を慎重に使ってほしい、世の中二度と核戦争が起こらない様に (中国語 国不明)

○長崎と広島で起こったことは間違いなく最も悲しい出来事の一つだ。人生で学んだ事件です。広島を訪れた後、当初の計画ではなかった長崎も訪れることにしました。この恐ろしい事件についてもっと知ることができてよかったです。亡くなり、その後遺症に苦しむ罪のない人々を思うと、本当に悲しく、申し訳なく思います。私の心は彼らと共にあり、彼らの魂の為に祈り、政治指導者達がこの事件から忘れられない教訓を学ぶことを願っています。(英語 イラン)

○戦争はだれが有罪かを問うことなく、灰と答えのない叫びだけを残します。(英語 バングラデシュ)

○戦争は世界に悲慘をもたらしたただけだった。間違いを繰り返さないようにするために、このことを忘れてはいけない。(スペイン語 アルゼンチン)

○私は光栄です。戦後、私の祖母は私の祖父の後を追ってアメリカに移住した被爆者です。彼女の回復のおかげで私は今日彼女の物語と彼女の言葉を共有することができて、永遠に感謝しています。私は地球とアメリカの平和を永遠に推進し続けます。(英語 アメリカ)

○日本人はなぜ戦争を始めて、このような惨劇が起きてしまったのか、このことを検証していないことが問題です。検証ができた上で平和を語り始めることができるだろうと思います。(日本)